

# 議事録

会議の名称	(番号) 1-53	令和7年度第3回墨田区資源環境審議会		
開催日時	令和8年2月2日(月) 10時00分から11時30分まで			
開催場所	第1委員会室(区役所17階)			
出席者数	<p>[委員] 萩原なつ子(会長) 日置雅晴(副会長) 江尻京子 三輪正幸 天野純子 戸屋輔 染谷真央 廣田健史 井上佳洋 宇仁菅伸介 山本耕平 小木曾清三 平田一真 真鍋文朗 横井貴広 吉野潤一 はねだ福代 甲斐まりこ 計18名</p> <p>[事務局] 資源環境部長 環境政策課長 環境保全課長 すみだ清掃事務所長 環境政策課主査</p> <p>[区職員] 環境政策課職員 環境保全課職員 すみだ清掃事務所職員</p>			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる) 非公開(傍聴できない)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	1人
議題	<p>1 第三次すみだ環境の共創プランについて</p> <p>2 第四次墨田区一般廃棄物処理基本計画の中間改定について</p> <p>3 令和7年度の主な環境施策について(進捗状況)</p>			
配付資料	<p>資料1-1 第三次すみだ環境の共創プランについて</p> <p>資料1-2 第三次すみだ環境の共創プラン(本冊)</p> <p>資料1-3 第三次すみだ環境の共創プラン(概要版)</p> <p>資料2-1 第四次墨田区一般廃棄物処理基本計画の中間改定について</p> <p>資料2-2 第四次墨田区一般廃棄物処理基本計画の中間改定(本冊)</p> <p>資料2-3 第四次墨田区一般廃棄物処理基本計画の中間改定(概要版)</p> <p>資料3 令和7年度の主な環境施策について(進捗状況)</p> <p>資料3別紙 プレスリリース資料(プラスチック再商品化計画の認定)</p>			
会議概要	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>議題1及び2について資料1-1から資料2-3に基づき、事務局から報告を行った。</p> <p>【議題1及び2の報告に対する質疑応答、意見】</p> <p>(委員)</p> <p>都知事が23区のごみの有料化を発表したが、現状を教えてください。</p> <p>(事務局)</p>			

東京都の市部では家庭ごみ有料化がはじまっているが、区部では行われていない。知事から導入について区側に働きかけていくという発言があったが、23区の清掃事業の役割分担がある。23区が担っているのは、ごみの収集運搬である。23区で作っている清掃一部事務組合では焼却処分、いわゆる中間処理を行っていて、東京都は23区と清掃一部事務組合からの委託を受け、最終処分を行っている。最終処分を受けている都知事が、収集運搬まで発言したことは、やや踏み込んだ発言かなと受け止めている。また年頭に特別区長会の会長が日本経済新聞の取材に対し、現時点では課題の整理を行っている段階であり、実施に向けても23区一斉実施しないと発言しており、現時点では導入について具体的には決まっていない状況である。

(委員)

プラスチック再商品化計画の認定を取得したことについて、資料2の計画ではあまりふれていないようだが、その点についてはどうか。

(事務局)

認定を受けたのが10月20日付けで、その後に連絡を受けたため計画に反映させるのは難しかった。ただ、認定を受けることを前提に、サーキュラーエコノミーでプラスチックの資源循環を進めていくと計画に記載させてもらった。

(事務局)

資料2の本冊の33ページの下の方の青枠の主な取組の中に、その旨記載している。

(委員)

資料1の共創プランの表紙の色とデザインコンセプトはいいと思った。裏表紙は黒一色なのだろうか。

(事務局)

実際は黒でなく、濃い緑で印刷される。デザインした千葉大学の先生の考えとしては、区の計画ごとに色テーマを決めており、共創プランは緑色となっている。

(委員)

パブリックコメントの件数が少ないようだが、意見がないわけではなく、今回の機会を知らない人もいたのでは。

(事務局)

当初、区報と区ウェブサイトの周知で両計画1件ずつの意見があったが、少ないと感じたので、区公式X(旧ツイッター)で周知したり、すみだ環境共創区民会議でも周知してもらった。

#### 【議題3の報告に対する質疑応答、意見】

(委員)

資料3の1ページに様々な助成制度があり、私も活用させてもらっているが、もっと区民に周知してはどうか。宅配ボックスがあることは今この資料で知った。

(事務局)

HPだけでなくSNSやチラシなどで周知しており、件数の合計は昨年度の411件から、今年度は12月26日時点で565件と増えている。宅配ボックスについては、他の助成制度と同じように広報し、家庭用生ごみ処理機が追加された際もSNS等で併せて

周知したところである。

(委員)

資料3の4ページによると、雨水タンクの助成が4件と少ない。区内にはたくさんの雨水タンクがある。かつて天水尊という名前で作られたもので、昔のお風呂屋さんのような大きな蛇口がついている。これが壊れるともう補修できない。使っていないタンクは小学校に眠っていたりするので、考えてもらいたい。また、京島で下町グリーンインフラの取組を行っている。もっと積極的に雨水を使ってもらえるような啓発をお願いしたい。

(委員)

使われていないタンクについての調査はしているのか。

(事務局)

公共施設や学校施設に設置しているタンクについては調査している。確かに壊れているものもあり、今後確認して、修繕あるいは再設置などを考えている。

(事務局)

天水尊は民間や家庭でつけているものもあり、設置場所の把握はしているが、現状までは把握できていない。

(事務局)

啓発に関し、水害時に事前排水できていないと貯留できないということについては、これからも力を入れていきたい。昨年秋の区内の総合防災訓練でも、雨水タンクのPRとともに事前排水についても周知した。今後より雨水を活用していくために、千葉大学の協力のもと普及啓発用のタンクの開発も行っている。

(委員)

昔、雨水に関して有名な職員もいたと思う。当時は雨水(うすい)と言っていたか。

(委員)

雨水(うすい)と言うと語弊がある人もいるので、雨水(あまみず)と言っている。天の水だから、あまみずとなる。

(委員)

今出たような雨水利用の話これからもっとPRしたらいいと思う。

(委員)

旅行会社と提携して区内の雨水タンクを見学しようという修学旅行生の受け入れを行い、私もガイド役で説明した。皆さん、雨水(うすい)という言葉をよく使うので、雨水(あまみず)と訂正した。そもそも小学校では雨水の啓発について、実施されているのだろうか。

(委員)

教育委員会との連携も大事だと思う。今も何かやっているのか。

(事務局)

雨水活用については雨水市民の会に委託して、出前講座や視察対応をしてもらっている。要望があれば学校等でそれを行うこともできる。すみだリサイクルセンターを拡充する話もあり、そこでも環境教育に力を入れていくことも考えている。

(事務局)

啓発については昨年度、雨水ネットワーク全国大会、あまみずフェスティバルの実施を行い、2千人以上の参加者があった。また毎年夏に、両国国技館の雨水を使わせてもらい、両国広小路で打ち水を行っており、更に啓発していきたい。また、学校の壊れているタンクについても修理して、子どもが学校生活の中で日常的に雨水活用できる手法についても、検討していけたらと思う。そこも含めて現在、学校に調査をしている。

(委員)

資料3の1ページの家庭用生ごみ処理機について、最近では転売事例もあるので、どのように使っているか、処理に失敗していないかを聞いてみるなどの対策がある。資料2の本編の31ページ施策④にもあるように、処理したものの、それを可燃ごみに出すことにならないような方法を考えておくことが重要だ。

(事務局)

転売や不正利用は想定していなかったが、利用については今後、アンケート調査を予定している。堆肥を作った場合には、その先の活用についても確認していけたらと考えている。

(委員)

資料3の1ページの建築物断熱改修(窓)の件数が60件と好評とのことだが、環境フェアのときに事業者から、墨田区の窓の申請が少しややこしいという話を聞いた。この数値を見ると、それが改善されたからかなとも思うがどうか。

(事務局)

申請方法などは区民の方が活用しやすいよう、日々検討している。今回の数値の倍増については、当初、国の補助金が今年度までという情報があり、駆け込み需要があったものと考えられる。国の補助事業の上限額は少なくなったものの、次年度も継続されるという発表があったので、今後も活用してもらいたい。

(委員)

資料3の1ページの太陽光発電システムの助成制度に関して、太陽光パネルのリサイクルや廃棄についてもお金がかかると思うが、区としてどのような取組をしていくのか。

(事務局)

太陽光パネルの耐用年数は20年くらいと言われ、当時最先端で導入した人は現在この時期を迎えており、社会問題化していると考えている。区独自のリサイクルについては、まだ考えられていないが、今後検討していかなければならない課題と認識している。

(委員)

4ページの粗大ごみ処理手数料のキャッシュレス化の、この3か月間の利用率が48%で、とてもよいと思う。最初の事業目的が、粗大ごみの適正排出、区民の利便性向上で、これらは達成されていると思う。もう一つがコスト削減だが、コンビニで粗大ごみシールを買うよりもキャッシュレス化したほうが、コストが下がるという発表が当初あった。しかし、以前の地域産業都市委員会では、コスト削減にはならなかったという報告があった。今後、利用率が更に上がった場合、コストは削減されるのか。

(事務局)

今後キャッシュレス化が進めば、有料粗大ごみ処理券を使う人が減っていき、ごみ処理券の印刷や、コンビニでの処理券の委託販売の手数料が減ることによって、コストの削減につながるかと思う。

(委員)

今回、共創プランにおいて、2035年に向けて高い目標設定をしたことと思う。資料3の助成制度などもあり、塵も積もればということはあるが、これだけで高い目標を達成できるかという、そうではない部分も見えてくる。そのギャップを埋めていくことが、今後の審議会のポイントになると思う。

(委員)

4ページの金属系粗大ごみの再資源化はとてもよい取組だと思うが、今後これを増やすための取組や課題について、教えてほしい。

(事務局)

現在、区民の方が出す粗大ごみは、年間約2,400トンで、不燃系が約700トンある。その内の約500トンが資源化できるものと考えている。令和7年度は300トン、その後は予算状況にもよるが、段階的に500トンまで増やしていきたいと考えている。

(委員)

金属資源の中で、金などの値段が上がっているが、回収することで利益が出ているのか、あるいは回収コストがかかって赤字なのか。社会的な意義があれば赤字でもやるべきと思うが、経済的に見てどうなのか。

(事務局)

実際、工場にも見学に行き、粗大ごみから有価資源を取り出す作業を行っていた。ものによっては手作業で一つ一つ解体して、例えばリチウムイオン電池などをドライバーなどではずしている。今は委託費を払って資源化しており、だいたい1キロ10円ほどで、そこまで高いものではないと感じている。

(委員)

プラスチックの再商品化計画について、全国の自治体の中でも先進的な取組だと思う。墨田区としてオリジナリティのあるアウトプットを楽しみにしている。

(委員)

資料1の共創プラン本冊の12ページなど、基本的にC評価が多いが、そもそも目標が高すぎたのか、他区より劣っているのか。また、2030年などの目標があまりに高いとも思える。12ページの区域の温室効果ガス排出量は20年ほぼ横ばいで、今後半減するのは難しいのでは。また、資料3の4ページのキャッシュレス化の部分について、予算の約1,600万円に初期費用の影響もあるのなら、来年はこの予算が大幅に減るのかとも思えるがどうか。

(事務局)

計画の評価のA、B、C設定に関し、例えばC評価については、目標進捗率60%未満と機械的に設定している。他区と比べて、23区の中ではこれでも削減できているほうである。地球温暖化対策ということで、産業革命前から1.5度以内の上昇に抑えていかないと今後、人類や自然界に深刻な影響を及ぼすと言われている。そのためには、

	<p>2050年のゼロカーボンを目指していく。そのためには、2030年度には2000年度比でカーボンハーフを実現していないとこれを達成できない。高い目標だとは思いますが、この目標値自体は変えられないと考えている。ただ、現実の進捗は、カーボンハーフにも到底及ばない状況のため、国や東京都、墨田区、区民や事業者の方々にもご協力いただき、これから更に加速させていかなければならないと認識している。</p> <p>(事務局)</p> <p>キャッシュレス化のコストについてはご指摘のとおり、今年度はシステム開発があったため、それを含めて約1,600万円という数字になっている。この内訳は、システム開発に約1,300万円、キャッシュレス手数料等のコストは約300万円を計上している。来年度はシステム開発がないので、500万円程度でできるものと考えている。</p> <p>(委員)</p> <p>あずま百樹園の付近に開発した雨水タンクを設置するとのことだが、もともと緑の観点から見ると、あずま百樹園はもっと緑が多かったはずだ。どんどん減って行って、区のみどり率も緑被率も上がっていない。環境保全という立場で、もっと緑を大切にしてほしい。</p> <p>(委員)</p> <p>計画の目標値に関してなかなか鋭い意見もあった。丁寧に説明してもらおうとわかるが、計画本文にはそこまで書かれていない。こういう事情があって、今回の目標を設定しているということを補足し、区民に理解してもらう必要がある。いろいろな施策についても、何の意義があってやっているのか、どれだけの予算をかける価値があるのかも含めて、丁寧に説明して理解してもらうことが大切かと思う。</p> <p>3 その他 事務局から、次年度の審議会等について説明があった。</p> <p>4 閉会</p>
<p>所 管 課</p>	<p>資源環境部環境政策課環境政策担当 (5608-6209)</p>